

静岡社会健康医学大学院大学：審査意見への対応を記載した書類（8月）

（目次） 社会健康医学研究科 社会健康医学専攻（M）

1. <入学者選抜の有効性の向上>

団体等推薦入試について、「受験生が過去に執筆した英語論文又は英語論文を引用して行った院内報告や地域発表等の活動実績の記載」を求め、面接試験でその内容を確認することで、「英語論文を読む力」や「英語の専門用語を理解する能力」を担保することとなっているが、面接時に効果的な質問を可能とする工夫をあらかじめ施すなど、入学者選抜の有効性の向上に努めること。（改善事項）・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

【審査意見以外の対応】

<担当教員の追加><配当年次の修正>

<専任教員の着任時期の変更に伴う修正>・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

<教員現職（就任年月）の修正><時間割の修正><シラバスの誤記の修正>・・・・ 6

<学生への教育支援体制> ※実地審査における意見への対応・・・・・・・・ 7

1. <入学者選抜の有効性の向上>

団体等推薦入試について、「受験生が過去に執筆した英語論文又は英語論文を引用して行った院内報告や地域発表等の活動実績の記載」を求め、面接試験でその内容を確認することで、「英語論文を読む力」や「英語の専門用語を理解する能力」を担保することとなっているが、面接時に効果的な質問を可能とする工夫をあらかじめ施すなど、入学者選抜の有効性の向上に努めること。

【対応】

推薦状に、英語力の確認できる過去の実績を記載させ、執筆した英語論文や研究発表等の資料を添付させるとともに、より効果的な質問ができるよう、受験者が引用した英語論文を事務局で収集し、あらかじめ面接官に提供することを説明し、「設置の趣旨等を記載した書類」を修正する。

【詳細説明】

本学での教育研究において求められる英語能力は、公衆衛生等の分野に関する英語論文や英文の新聞・雑誌記事等を読み、専門用語の意味を正しく理解しつつ、文章の要旨を適切に理解できる能力である。

これを確認するため団体等推薦入試の面接に備え、次の様な準備を行い、面接官が受験生の英語能力の確認を効果的に行えるようにする。なお、面接官は、公衆衛生に精通した専任教員4名（学長、研究科長、学長が指名する専任教員2名）で構成する。

まず、出願時における推薦書に「受験生が過去に執筆した英語論文又は英語論文を引用して行った研究発表等の活動実績」を記載させるとともに、執筆した英語論文や研究発表等の資料を添付させ、受験生の実績を確認する。

出願から面接までの間に、より効果的な質問を面接官が行えるよう、受験者が引用した英語論文を事務局で収集し、あらかじめ面接官に提供するとともに、面接官4名による事前打合せにおいて情報共有の上、質問項目など面接実施の方針について協議する。

面接時には、推薦書に記載された実績だけでなく、引用した英語論文の要旨や専門用語、引用した理由なども含めて問うことで、本学での教育研究に必要な英語能力について効果的に確認する。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類

新	旧
(70 ページ) 8 入学者選抜の概要 (3) 入学者の選抜方法、選抜体制 イ 選抜方法 (イ) 団体等推薦入試 (4名程度)	(70 ページ) 8 入学者選抜の概要 (3) 入学者の選抜方法、選抜体制 イ 選抜方法 (イ) 団体等推薦入試 (4名程度)

新	旧
<p>受験者（被推薦者）が所属又は勤務する団体等（病院、地方自治体等）からの推薦状があるものについては、別途、書類審査（小論文）及び面接試験による選抜を実施する。</p> <p>書類審査（小論文）及び面接試験については、一般入試と同様の方法で行う。</p> <p>なお、面接試験に関して、団体等からの推薦状には、受験者の推薦理由として、人物の評価（受験者の業務内容、取組の姿勢、業績の評価等）や修学にあたって受験者に期待することについて記載を求める。また、受験者が過去に執筆した英語論文又は英語論文を引用して行った<u>研究発表等の活動実績</u>の記載を求めるとともに、<u>執筆した英語論文や研究発表等の資料を添付させ、受験生の実績を確認する。</u></p> <p><u>出願から面接までの間に、より効果的な質問を面接官が行えるよう、受験者が引用した英語論文を事務局で収集し、あらかじめ面接官に提供するとともに、面接官4名による事前打合せにおいて情報共有の上、質問項目など面接実施の方針について協議する。</u></p> <p><u>面接時には、推薦書に記載された実績だけでなく、引用した英語論文の要旨や専門用語、引用した理由なども含めて問うことで、「健康と医療、環境に対する高い関心」を確認し、過去の活動実績により、受験者が「健康課題に対して解決策を提示しようとする能力」や「新たな視点で課題を見つけ、解決に取り組む能力」を有することのほか、<u>本学での教育研究に必要な「英語論文を読む能力」や「英語の専門用語を理解する能力」を確認する。</u></u></p> <p>なお、推薦状を提出することができる団体として、具体的には、以下のようなものを想定している。</p>	<p>受験者（被推薦者）が所属又は勤務する団体等（病院、地方自治体等）からの推薦状があるものについては、別途、書類審査（小論文）及び面接試験による選抜を実施する。</p> <p>書類審査（小論文）及び面接試験については、一般入試と同様の方法で行う。</p> <p>なお、面接試験に関して、団体等からの推薦状には、受験者の推薦理由として、人物の評価（受験者の業務内容、取組の姿勢、業績の評価等）や修学にあたって受験者に期待することについて記載を求める。また、受験者が過去に執筆した英語論文又は英語論文を引用して行った<u>院内報告や地域発表等の活動実績</u>の記載を求めるとともに、<u>執筆・引用した英語論文の内容や重要となる専門用語（キーワード）、その要旨について、面接試験でその内容を確認する。</u></p> <p>これにより、「健康と医療、環境に対する高い関心」を確認し、過去の活動実績により、受験者が「健康課題に対して解決策を提示しようとする能力」や「新たな視点で課題を見つけ、解決に取り組む能力」を有することのほか、「英語論文を読む能力」や「英語の専門用語を理解する能力」を確認する。</p> <p>なお、推薦状を提出することができる団体として、具体的には、以下のようなものを想定している。</p>

新	旧
<p>[病院] 県立病院、地域医療支援病院、大学附属病院、その他学長が特に認める病院 (小規模病院・診療所等を除く)</p> <p>[地方自治体] 県、県内市町</p> <p>[健康保険者] 全国健康保険協会県支部、 県国民健康保険団体連合会 (個別の組合を除く)</p> <p>[その他] 県病院協会、県医師会、県歯科 医師会、県看護協会、県薬剤師会、健康保 険組合連合会静岡連合会</p> <p>【別添資料 42】 団体等推薦入試における推 薦状</p>	<p>[病院] 県立病院、地域医療支援病院、大学附属病院、その他学長が特に認める病院 (小規模病院・診療所等を除く)</p> <p>[地方自治体] 県、県内市町</p> <p>[健康保険者] 全国健康保険協会県支部、 県国民健康保険団体連合会 (個別の組合を除く)</p> <p>[その他] 県病院協会、県医師会、県歯科 医師会、県看護協会、県薬剤師会、健康保 険組合連合会静岡連合会</p> <p>【別添資料 42】 団体等推薦入試における推 薦状</p>

【審査意見外の対応】

社会健康医学研究科 社会健康医学専攻 (M)

<担当教員の追加>

【修正書類：教育課程等の概要、教員の氏名等、授業科目の概要、シラバス】

(1) 公衆衛生危機管理論

全 15 回中 13・14 回目のリスクコミュニケーション(1)(2)について、当初申請時点では、担当教員を小島原教授、天笠准教授としていたが、今回溝田准教授を追加し、3名の共同担当とする。

ヘルスコミュニケーション学を専門としている溝田准教授を担当教員に追加することにより、実務的なリスクコミュニケーションの手法を健康危機管理に効果的に導入する方法について、実例を交えて講義することが可能となり、教育の質の向上につながると判断した。

(2) 疫学概論

前回申請時点では、担当教員は小島原教授のみであったが、授業科目の概要を分割し、全8回中前半の1～4回を、小島原教授、佐藤(康)准教授との共同担当とする。

医学統計、治験を専門としている佐藤(康)准教授を担当教員に追加することにより、臨床疫学の側面も含む多角的な疫学の理解が向上し、教育効果が増大すると判断した。

<配当年次の修正>

【修正書類：教育課程等の概要、教員の氏名等、シラバス、設置の趣旨等を記載した書類 別添資料 21 (カリキュラムマップ) 及び 22 (履修モデル)】

- ・ 「医療統計学特論」は、前回申請時点では、1年次後期前半の2・3時限目連続の授業で開講する予定としていたが、時限連続の受講では学生が十分な予習、復習の時間を確保できない恐れがあるため、1年次後期の前・後半を通じて開講する。
- ・ これを受け、受講に際して高度な統計プログラム・統計解析の技術等の総合的な研究能力が求められる「健康・医療ビッグデータ特論」は、医療統計学特論の履修後に受講した方が、学生の理解が深まり、教育の質の向上につながると判断したため、**配当年次及び開講時期を2年次前期に変更する。**

<専任教員の着任時期の変更に伴う修正>

【修正書類：教員の氏名等】

山本教授、溝田准教授の本学への着任時期について、当初申請から変更が生じたため、就任(予定)年月等を修正する。

山本教授は、令和3年6月から同年10月に着任時期を変更する。

溝田准教授は、令和3年9月から令和4年9月に着任時期を変更する。

なお、授業の実施に関しては、両名とも着任までの間は、兼任教員(非常勤講師)として担当授業科目の講義等を行う予定であり、授業時間外における学生に対する指導についても、学生全員に1台ずつ貸与するパソコン及び専用のメールアドレスを活用するとともに、必要に応じてWeb会議システムを用いた対面による指導を行うことで、支障なく適切な指導が可能で

ある。

また、研究指導体制に関しては、溝田准教授が所属する「行動医科学・ヘルスコミュニケーション学領域」について、令和3年度は、同領域に所属する山本教授、山崎教授、天笠准教授の3人が研究指導を行い、令和4年度から、さらに溝田准教授が加わることで、より充実した研究指導体制となる。

[着任時期の変更に伴い兼任教員（非常勤講師）として担当する授業科目]

教員名	授業科目名	必修区分	授業回数	科目責任者
山本 精一郎	社会健康医学概論	必修	1	小島原 典子
	ヘルスコミュニケーション概論	必修	8	山本 精一郎
	行動医科学	必修	4	山本 精一郎
	計	—	13	—
溝田 友里	公衆衛生危機管理論	選択	2	小島原 典子
	生活習慣病（生活習慣・遺伝子・環境）	選択	2	臼井 健
	健康情報学	選択	1	山本 精一郎
	ヘルスコミュニケーション特論	選択	8	溝田 友里
	計	—	13	—

<教員現職（就任年月）の修正>

【修正書類：教員の氏名等】

小島原教授、溝田准教授、佐藤（洋）講師について、令和2年4月より現職が変更となったため、教員名簿（教員の氏名等）の現職欄を修正する。

<時間割の修正>

前回申請時点では、必修科目（環境健康科学・産業衛生学概論）、選択科目（環境健康科学・産業衛生学特論及び遺伝カウンセリング）を木曜日に設定していたが、本学は、主に社会人を学生として想定しているため、卒業要件単位に係る授業の開講日を金・土曜日に限定することとした。

これにより、学生が働きながら通学しやすい環境を整え、教育の質の向上を図る。

<シラバスの誤記の修正>

医療・ケア組織論のシラバスについて2回目のテーマの記載内容に誤りがあったため、以下のとおり当該箇所を修正する。

新	旧
組織論の <u>歴史</u> と国内外の組織文化研究	組織論の <u>歴外</u> 組織文化研究

＜学生への教育支援体制＞ ※実地審査における意見への対応

1つのカリキュラムで様々なバックボーンを持った方を教育する場合、困難が生まれるのではないかという懸念はあるため、学生の支援体制等、一人ひとりのレベルに応じた教育・研究指導をお願いしたい。

先日行われた大学設置・学校法人審議会大学設置分科会による実地審査における意見への対応として、以下のとおり、学生一人ひとりに対し個別に配慮するとともに、組織として継続的な改善を行っていく。

1. 学生個人に即応した改善

（医学知識に関する教育機会の充実）

入学者の基礎的な素養は、職種によって、また個々人によっても異なるが、例えば、行政などの現場で長らく健康増進を担ってきた保健師や管理栄養士などは、医学知識に関する不安感があることが想定される。

そこで、合格後に、社会健康医学を学修する上で必要な医学知識に関する参考書を提示し、入学前までの読了を推奨するほか、選択科目として「基礎医学講座」を設け、入学時のオリエンテーションにおいて学修内容を紹介し、必要に応じて選択することを推奨するなど、学生の基礎的な医学知識の充実を図る。

また、専任教員の約半数が医師資格保有者であることの強みを活かし、学生の到達度・理解度や希望などに応じて補習や勉強会を行うなど、医学概論に係る教育機会や内容の充実を図っていく。

※審査意見への対応を記載した書類（3月）の14（1）に記載

（授業時間外の学修内容の設定）

本学は、大学院の修士課程であり、高度で専門的な知識の修得のため、授業時間外にも、予習や復習、レポート作成などの学修内容を設定する。

これら授業時間外の学修内容を各授業科目のシラバスに明示することで、学生は、担当教員から配布された講義資料や参考図書等をあらかじめ熟読し、授業内容に関連した基本的な用語や社会的な背景について理解した上で、授業に臨むとともに、関連した参考書を読むなどして授業内容を振り返り、理解を深める。

各授業科目の担当教員においては、学生の予習・復習への取組状況を意識しながら授業を進め、履修した全ての学生が到達目標に達することができるよう、個々の学生のバックボーンを考慮しつつ、授業の理解度や課題への対応状況などきめ細かく把握し、継続的に履修指導を行う。

※審査意見への対応を記載した書類（3月）の8（1）に記載

（きめ細かな履修指導、研究指導体制の構築）

本学においては、2学年20人の学生に対し21人の専任教員を配置し、きめ細かな履修指導及び研究指導を行うことができる体制を構築する。

学生1人につき研究指導教員と研究指導補助教員の2人を担当教員として選任し、日頃の学

習状況や生活環境に関する相談から、研究指導（修士論文及び課題研究）に関する専門的な指導に至るまで、幅広く、切れ目無く、学生をフォローする。

また、学生全員にパソコンを1台ずつ貸与し、専用のメールアドレスも付与することで、いつでも担当教員に相談できる環境を整える。

※設置の趣旨を記載した書類の46-47ページ、64-65ページに記載

2. 継続的な改善

本学では、学校教育法第109条第1項に基づき、教育研究水準の向上と大学の質の保証を図るため、専任教員と事務局職員の代表者で構成する「自己点検評価委員会」を設置する。

教育研究指導を行う上で生じた懸念等については、自己点検評価委員会において点検評価を行い、結果を報告書にまとめた上で教授会に報告し、教育研究活動の継続的な改善につなげていく。

※設置の趣旨を記載した書類の74-75ページに記載

以上のように、学生に対する個別の配慮として、教育機会の充実、授業時間外の学修内容への対応、きめ細かな履修指導・研究指導体制の構築を行い、学生一人ひとりのレベルに応じた丁寧な教育・研究指導を実施するとともに、様々なバックボーンを持つ学生に対して教育上の困難が生じないように、大学が組織として教育指導、研究指導について不断の見直しを行っている。

(新旧対照表) 教育課程等の概要

・【新】

教育課程等の概要																
(社会健康医学研究科 社会健康医学専攻 修士課程)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
共通科目	公衆衛生危機管理論	1後		2		○			1	2				兼1	オムニバス共同(一部) ※演習	
	小計(7科目)	—	5	4	0				7	5	1	0	0	兼4	—	
公衆衛生学 科目	疫学領域	疫学概論	1前	1		○			1	1					オムニバス共同(一部)	
		小計(4科目)	—	2	2	0			4	1	0	0	0	兼1	—	
	健康政策学領域 健康管理・	健康・医療ビッグデータ特論	2前		1			○			1	1				オムニバス共同(一部) ※講義
		小計(6科目)	—	3	3	0			2	1	2	0	0	兼7	—	
合計(50科目)		—	17	43	6				11	6	4	0	0	兼16	—	

・【旧】

教育課程等の概要																
(社会健康医学研究科 社会健康医学専攻 修士課程)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
共通科目	公衆衛生危機管理論	1後		2		○			1	1				兼1	オムニバス共同(一部) ※演習	
	小計(7科目)	—	5	4	0				7	4	1	0	0	兼4	—	
公衆衛生学 科目	疫学領域	疫学概論	1前	1		○			1	—					—	
		小計(4科目)	—	2	2	0			4	1	0	0	0	兼1	—	
	健康政策学領域 健康管理・	健康・医療ビッグデータ特論	1後		1			○			1	1				オムニバス共同(一部) ※講義
		小計(6科目)	—	3	3	0			2	1	2	0	0	兼7	—	
合計(50科目)		—	17	43	6				11	6	4	0	0	兼16	—	

(新旧対照表) 教員の氏名等 (1、2 ページ)

・【新】

教 員 の 氏 名 等												
(社会健康医学研究科 社会健康医学専攻 修士課程)												
調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現職 (就任年月)	申請に係 る大学等 の職務に 従事する 週当たり 平均日数
7	専	教授	コジマハラ ノリコ 小島原 典子 <令和3年4月>		博士 (医学)		社会健康医学概論 ※ 公衆衛生危機管理論 ※ 疫学概論 ※ 臨床研究概論 ※ フィールド実習 ※ 修士論文 課題研究	1 前 1 後 1 前 1 前 2 前 1 後・2 1 後・2	0.9 1.2 1 0.5 0.1 8 4	1 1 1 1 1 1 1	静岡県立総 合病院 上 席研究員 (令和2.4)	5日
11	専	教授	ヤマモト セイイチロウ 山本 精一郎 <令和3年10月 >		博士 (保健学)		社会健康医学概論 ※ 健康情報学 ※ ヘルスコミュニケーション 概論 行動医科学 ※ 修士論文 課題研究	1 前 1 後 1 前 1 前 1 後・2 1 後・2	0.1 0.8 1 0.5 8 4	1 1 1 1 1 1	国立がん研 究センター 特任研究部 長 (平成8.4)	5日
	兼任	講師	ヤマモト セイイチロウ 山本 精一郎 <令和3年6月>		博士 (保健学)		社会健康医学概論 ※ ヘルスコミュニケーション 概論 行動医科学 ※	1 前 1 前 1 前	0.1 1 0.5	1 1 1		
①	専	准教授	サトウ ヤス 佐藤 康仁 <令和3年4月>		博士 (医学)		公的統計活用法 疫学概論 ※ 臨床研究概論 ※ 修士論文 課題研究	1 後 1 前 1 前 1 後・2 1 後・2	1 0.5 0.5 8 4	1 1 1 1 1	東京女子医 科大学 医 学部 講師 (平成14.6)	5日
②	専	准教授	ミヅタ ユリ 溝田 友里 <令和4年9月>		博士 (保健学)		公衆衛生危機管理論 生活習慣病(生活習 慣・遺伝子・環境) ※ 健康情報学 ※ ヘルスコミュニケーション 特論 修士論文 課題研究	1 後 1 後 1 後 2 前 1 後・2 1 後・2	0.1 0.3 0.1 1 8 4	1 1 1 1 1 1	厚生労働省 健康局健康 課 課長補 佐 (令和2.4)	5日
	兼任	講師	ミヅタ ユリ 溝田 友里 <令和3年9月>		博士 (保健学)		公衆衛生危機管理論 生活習慣病(生活習 慣・遺伝子・環境) ※ 健康情報学 ※ ヘルスコミュニケーション 特論	1 後 1 後 1 後 2 前	0.1 0.3 0.1 1	1 1 1 1		
17	専	准教授	カチ エリン 中谷 英仁 <令和3年4月>		博士 (医学)		医療統計学概論 ※ 医療統計学特論 ※ 臨床試験解析学 ※ 観察研究解析学 ※ 健康・医療ビッグデー タ特論 ※ 修士論文 課題研究	1 前 1 後 2 前 2 前 2 前 1 後・2 1 後・2	1.5 1.7 0.9 0.8 0.6 8 4	1 1 1 1 1 1 1	静岡県立総 合病院 室 長 (平成29.4)	5日
22	専	講師	サトウ ヨコ 佐藤 洋子 <令和3年4月>		博士 (医学)		医療統計学概論 ※ 医療統計学特論 ※ 臨床試験解析学 ※ 観察研究解析学 ※ 健康・医療ビッグデー タ特論 ※ 修士論文 課題研究	1 前 1 後 2 前 2 前 2 前 1 後・2 1 後・2	1.5 1.7 0.9 0.8 0.6 8 4	1 1 1 1 1 1 1	静岡県立総 合病院 研 究員 (令和2.4)	5日

・【旧】

教 員 の 氏 名 等												
(社会健康医学研究科 社会健康医学専攻 修士課程)												
調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現職 (就任年月)	申請に係 る大学等 の職務に 従事する 週当たり 平均日数
7	専	教授	コジマハラ リコ 小島原 典子 <令和3年4月>		博士 (医学)		社会健康医学概論 ※ 公衆衛生危機管理論 ※ 疫学概論 臨床研究概論 ※ フィールド実習 ※ 修士論文 課題研究	1前 1後 1前 1前 2前 1後・2 1後・2	0.9 1.2 1 0.5 0.1 8 4	1 1 1 1 1 1 1	東京女子医 科大学 医 学部 准教 授 (平成 11.4)	5日
11	専	教授	ヤマト セイイチロウ 山本 精一郎 <令和3年6月>		博士 (保健学)		社会健康医学概論 ※ 健康情報学 ※ ヘルスコミュニケーション 概論 行動医学 ※ 修士論文 課題研究	1前 1後 1前 1前 1後・2 1後・2	0.1 0.8 1 0.5 8 4	1 1 1 1 1 1	国立がん研 究センター 特任研究部 長 (平成 8.4)	5日
14	専	准教授	サトウ ヤス 佐藤 康仁 <令和3年4月>		博士 (医学)		公的統計活用法 臨床研究概論 ※ 修士論文 課題研究	1後 1前 1後・2 1後・2	1 0.5 8 4	1 1 1 1	東京女子医 科大学 医 学部 講師 (平成 14.6)	5日
16	専	准教授	ミヅタ ユリ 溝田 友里 <令和3年9月>		博士 (保健学)		生活習慣病（生活習 慣・遺伝子・環境）※ 健康情報学 ※ ヘルスコミュニケー ション特論 修士論文 課題研究	1後 1後 2前 1後・2 1後・2	0.3 0.1 1 8 4	1 1 1 1 1	国立がん研 究センター 室長 (平成 19.4)	5日
17	専	准教授	ナカニ エンジ 中谷 英仁 <令和3年4月>		博士 (医学)		医療統計学概論 ※ 医療統計学特論 ※ 臨床試験解析学 ※ 観察研究解析学 ※ 健康・医療ビッグデー タ特論 ※ 修士論文 課題研究	1前 1後 2前 2前 1後 1後・2 1後・2	1.5 1.7 0.9 0.8 0.6 8 4	1 1 1 1 1 1 1	静岡県立総 合病院 室 長 (平成 29.4)	5日
22	専	講師	サトウ ヨコ 佐藤 洋子 <令和3年4月>		博士 (医学)		医療統計学概論 ※ 医療統計学特論 ※ 臨床試験解析学 ※ 観察研究解析学 ※ 健康・医療ビッグデー タ特論 ※ 修士論文 課題研究	1前 1後 2前 2前 1後 1後・2 1後・2	1.5 1.7 0.9 0.8 0.6 8 4	1 1 1 1 1 1 1	防衛医科大 学校 防衛 医学研究セ ンター 助 教 (平成 29.4)	5日

(新旧対照表) 授業科目の概要

・【新】

授 業 科 目 の 概 要			
(社会健康医学研究科 社会健康医学専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	公衆衛生危機管理論	地震や台風等の自然災害、食中毒や新型インフルエンザ等の感染症など、公衆衛生を取り巻く危機管理への適切なアプローチについて事例検討を交えた講義を行い、危機管理パス（計画書）の試案を作成し討論する。 （オムニバス方式・共同（一部）／全15回） （7 小島原典子／8回）概論及び感染症の健康危機管理を中心に講義を行う。 ④ 天笠 崇／2回）虐待、精神疾患に関する講義を行う。 （25 谷 晃／3回）自然災害や大気汚染に関する講義を行う。 （7 小島原典子、④ 天笠 崇、② 溝田友里／2回）（共同）リスクコミュニケーションに留意して作成した危機管理パスを用いて演習を行う。	オムニバス 共同（一部） 講義 24 時間 演習 6 時間
公衆衛生学 科目	疫学領域 疫学概論	人間集団を対象とする疫学研究の意義を学ぶとともに、自分の疑問を構造化し、研究の基本設計図を作成するために必要な理論や基本的知識について講義を行う。後半からは実際の論文を読んで批判的吟味のポイントについて解説を行う。 （オムニバス方式／全8回） （7 小島原典子、① 佐藤康仁／4回）（共同）臨床上、または公衆衛生上の疑問を構造化し、研究の基本設計図を作成するために必要な理論や基本的知識について講義を行う。 （7 小島原典子／4回）疫学論文を読んで研究デザイン別に批判的吟味のポイントについて解説を行う。	オムニバス 共同（一部）

・【旧】

授 業 科 目 の 概 要			
(社会健康医学研究科 社会健康医学専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	公衆衛生危機管理論	地震や台風等の自然災害、食中毒や新型インフルエンザ等の感染症など、公衆衛生を取り巻く危機管理への適切なアプローチについて事例検討を交えた講義を行い、危機管理パス（計画書）の試案を作成し討論する。 （オムニバス方式・共同（一部）／全15回） （7 小島原典子／8回）概論及び感染症の健康危機管理を中心に講義を行う。 ④ 天笠 崇／2回）虐待、精神疾患に関する講義を行う。 （25 谷 晃／3回）自然災害や大気汚染に関する講義を行う。 （7 小島原典子、④ 天笠 崇／2回）（共同）リスクコミュニケーションに留意して作成した危機管理パスを用いて演習を行う。	オムニバス 共同（一部） 講義 24 時間 演習 6 時間
公衆衛生学 科目	疫学領域 疫学概論	人間集団を対象とする疫学研究の意義を学ぶとともに、自分の疑問を構造化し、研究の基本設計図を作成するために必要な理論や基本的知識について講義を行う。後半からは実際の論文を読んで批判的吟味のポイントについて解説を行う。	

【新】

科目名	公衆衛生危機管理論			
必修区分	選択			
開講時期	1年次・後期	単位数	2単位(90分×15コマ)	
科目責任者	小島原典子	担当教員	小島原典子、天笠 崇、谷 晃、溝田友里	
科目概要	<p>地震や台風等の自然災害、食中毒や新型インフルエンザ等の感染症など、公衆衛生を取り巻く危機管理への適切なアプローチについて事例検討を交えた講義を行い、危機管理パス(計画書)の試案を作成し討論する。 (オムニバス方式・共同(一部)／全15回) (7 小島原典子／8回)概論及び感染症の健康危機管理を中心に講義を行う。 (①天笠 崇／2回)虐待、精神疾患に関する講義を行う。 (25 谷 晃／3回)自然災害や大気汚染に関する講義を行う。 (7 小島原典子、①天笠 崇、②溝田友里／2回)(共同)リスクコミュニケーションに留意して作成した危機管理パスを用いて演習を行う。</p>			
到達目標	<p>1. 感染症の健康危機管理について説明できる。 2. リスクコミュニケーション、危機管理パスについて説明できる。 3. 自然災害の健康危機管理について説明できる。 4. 虐待、精神疾患など社会問題の危機管理について説明できる。</p>			
授業展開	授業回数	テーマ	内容	担当教員
	1	災害対策概論	一般的なパスの作成方法について解説する。	小島原典子
	2	自然災害(1)	静岡の地形や気象を中心とした自然災害について解説する。	谷 晃
	3	自然災害(2)	台風・集中豪雨・気候変動について説明し、取るべき防災行動について考える	谷 晃
	4	大気汚染	光化学オキシダント等の大気汚染の現状と、人や農作物への影響について解説する。	谷 晃
	5	感染症(1)	感染症概論・関連法規について解説を行う。	小島原典子
	6	感染症(2)	感染症対策の実務経験が豊富な静岡県職員をゲストスピーカーとして迎え、感染症対策の実際について解説を受け、パスの試案を作成する。	小島原典子
	7	感染症(3)	結核の実務経験が豊富な静岡県職員をゲストスピーカーとして迎え、感染症対策の実際について解説を受け、パスの試案を作成する。	小島原典子
	8	感染症(4)	輸入感染症の実務経験が豊富な静岡県職員をゲストスピーカーとして迎え、新型インフルエンザ、エボラ出血熱、ジカウイルス感染症、人畜共通感染症対策の実際について解説を受け、パスの試案を作成する。	小島原典子
9	中毒	テロを含む化学中毒対策の実務経験が豊富な静岡県職員をゲストスピーカーとして迎え、中毒対策の実際について解説を受け、パスの試案を作成する。	小島原典子	

10	公害対策	公害対策の実務経験が豊富な静岡県職員をゲストスピーカーとして迎え、公害対策の実際について解説を受け、パスの試案を作成する。	小島原典子
11	虐待	児童虐待、DV実務経験が豊富な静岡県職員をゲストスピーカーとして迎え、虐待対策の実際について解説を受け、パスの試案を作成する。	天笠 崇
12	精神疾患	精神疾患に関係する危機管理実務経験が豊富な静岡県職員をゲストスピーカーとして迎え、精神障害対策の実際について解説を受け、パスの試案を作成する。	天笠 崇
13	リスクコミュニケーション(1)	リスクコミュニケーションについて概説し、作成したパスの発表会の準備を行う。	小島原典子、 天笠 崇、 溝田友里
14	リスクコミュニケーション(2)	障害者対応・外国人対応に対して概説し、作成したパスの発表会の準備を行う。	小島原典子、 天笠 崇、 溝田友里
15	発表会	学修した課題から学生がパスを作成して、普及啓発の模擬発表する。	小島原典子
評価方法	<p>討論の参加度(30%)、危機管理パスの作成(30%)、発表(40%) <成績評価の前提条件> 選択科目のため、2/3以上の出席(全15コマ中10コマ以上)を条件とする。</p>		
テキスト	スライドハンドアウト	参考書	なし
授業時間外で行う学修内容	<p>予習: あらかじめ配布した講義資料を熟読すること。 復習: 講義内容に関連した文献を読み、理解を深め、事例発表の準備をすること。</p>		
備考			

【旧】

科目名	公衆衛生危機管理論			
必修区分	選択			
開講時期	1年次・後期	単位数	2単位(90分×15コマ)	
科目責任者	小島原典子	担当教員	小島原典子、天笠 崇、谷 晃	
科目概要	<p>地震や台風等の自然災害、食中毒や新型インフルエンザ等の感染症など、公衆衛生を取り巻く危機管理への適切なアプローチについて事例検討を交えた講義を行い、危機管理パス(計画書)の試案を作成し討論する。(オムニバス方式・共同(一部)／全15回)</p> <p>(7 小島原典子／8回) 概論及び感染症の健康危機管理を中心に講義を行う。</p> <p>(1 天笠 崇／2回) 虐待、精神疾患に関する講義を行う。</p> <p>(25 谷 晃／3回) 自然災害や大気汚染に関する講義を行う。</p> <p>(7 小島原典子、1 天笠 崇／2回)(共同)リスクコミュニケーションに留意して作成した危機管理パスを用いて演習を行う。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 感染症の健康危機管理について説明できる。 2. リスクコミュニケーション、危機管理パスについて説明できる。 3. 自然災害の健康危機管理について説明できる。 4. 虐待、精神疾患など社会問題の危機管理について説明できる。 			
授業展開	授業回数	テーマ	内容	担当教員
	1	災害対策概論	一般的なパスの作成方法について解説する。	小島原典子
	2	自然災害(1)	静岡の地形や気象を中心とした自然災害について解説する。	谷 晃
	3	自然災害(2)	台風・集中豪雨・気候変動について説明し、取るべき防災行動について考える	谷 晃
	4	大気汚染	光化学オキシダント等の大気汚染の現状と、人や農作物への影響について解説する。	谷 晃
	5	感染症(1)	感染症概論・関連法規について解説を行う。	小島原典子
	6	感染症(2)	感染症対策の実務経験が豊富な静岡県職員をゲストスピーカーとして迎え、感染症対策の実際について解説を受け、パスの試案を作成する。	小島原典子
	7	感染症(3)	結核の実務経験が豊富な静岡県職員をゲストスピーカーとして迎え、感染症対策の実際について解説を受け、パスの試案を作成する。	小島原典子
	8	感染症(4)	輸入感染症の実務経験が豊富な静岡県職員をゲストスピーカーとして迎え、新型インフルエンザ、エボラ出血熱、ジカウイルス感染症、人畜共通感染症対策の実際について解説を受け、パスの試案を作成する。	小島原典子
9	中毒	テロを含む化学中毒対策の実務経験が豊富な静岡県職員をゲストスピーカーとして迎え、中毒対策の実際について解説を受け、パスの試案を作成する。	小島原典子	

10	公害対策	公害対策の実務経験が豊富な静岡県職員をゲストスピーカーとして迎え、公害対策の実際について解説を受け、パスの試案を作成する。	小島原典子
11	虐待	児童虐待、DV実務経験が豊富な静岡県職員をゲストスピーカーとして迎え、虐待対策の実際について解説を受け、パスの試案を作成する。	天笠 崇
12	精神疾患	精神疾患に関係する危機管理実務経験が豊富な静岡県職員をゲストスピーカーとして迎え、精神障害対策の実際について解説を受け、パスの試案を作成する。	天笠 崇
13	リスクコミュニケーション(1)	リスクコミュニケーションについて概説し、作成したパスの発表会の準備を行う。	小島原典子、 天笠 崇
14	リスクコミュニケーション(2)	障害者対応・外国人対応に対して概説し、作成したパスの発表会の準備を行う。	小島原典子、 天笠 崇
15	発表会	学修した課題から学生がパスを作成して、普及啓発の模擬発表する。	小島原典子
評価方法	<p>討論の参加度(30%)、危機管理パスの作成(30%)、発表(40%) <成績評価の前提条件> 選択科目のため、2/3以上の出席(全15コマ中10コマ以上)を条件とする。</p>		
テキスト	スライドハンドアウト	参考書	なし
授業時間外で行う学修内容	<p>予習: あらかじめ配布した講義資料を熟読すること。 復習: 講義内容に関連した文献を読み、理解を深め、事例発表の準備をすること。</p>		
備考			

【新】

科目名	疫学概論			
必修区分	必修			
開講時期	1年次・前期	単位数	1単位(90分×8コマ)	
科目責任者	小島原典子	担当教員	小島原典子、佐藤康仁	
科目概要	<p>人間集団を対象とする疫学研究の意義を学ぶとともに、自分の疑問を構造化し、研究の基本設計図を作成するために必要な理論や基本的知識について講義を行う。後半からは実際の論文を読んで批判的吟味のポイントについて解説を行う。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(7小島原典子、①佐藤康仁/4回)(共同) 臨床上、または公衆衛生上の疑問を構造化し、研究の基本設計図を作成するために必要な理論や基本的知識について講義を行う。</p> <p>(7小島原典子/4回) 疫学論文を読んで研究デザイン別に批判的吟味のポイントについて解説を行う。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. クリニカルクエスチョンと研究デザインについて説明できる。 2. メタアナリシスの論文を読み批判的吟味ができる。 3. バイアスと研究の限界について説明できる。 4. 研究デザインごとに論文を批判的に読むことができる。 			
授業展開	授業回数	テーマ	内容	担当教員
	1	疫学概論	疫学と研究倫理の変遷について解説し、本科目の進め方の説明を行う。	小島原典子、佐藤康仁
	2	研究デザイン	クリニカルクエスチョン作成と研究デザイン総論について解説する。	小島原典子、佐藤康仁
	3	偶然とバイアス	研究の限界と交絡の制御について解説する。	小島原典子、佐藤康仁
	4	疫学研究のデザイン(1)	横断研究(診断又はスクリーニング)の論文を批判的に読むポイントを解説する。論文の批判的吟味のレポートを作成する。	小島原典子、佐藤康仁
	5	疫学研究のデザイン(2)	症例対照研究(リスク)の論文を批判的に読むポイントを解説する。論文の批判的吟味のレポートを作成する。	小島原典子
	6	疫学研究のデザイン(3)	コホート研究(予後)の論文を批判的に読むポイントを解説する。論文の批判的吟味のレポートを作成する。	小島原典子
	7	疫学研究のデザイン(4)	介入研究(無作為比較試験)の論文を批判的に読むポイントを解説する。論文の批判的吟味のレポートを作成する。	小島原典子
	8	疫学研究のデザイン(5)	システマティックレビューについて解説し、メタアナリシスの論文を批判的に読むポイントを解説する。論文の批判的吟味のレポートを作成する。	小島原典子
評価方法	<p>レポート(100%)</p> <p><成績評価の前提条件> 必修科目のため、授業は原則として全て出席していることが望ましい。なお、やむを得ず欠席した授業回については、次回の授業までに収録した講義を視聴するとともに、担当教員からの課題やレポート作成等を行うこと。</p>			
テキスト	臨床疫学 EBM実践のための必須知識 第3版(2016) 福井次矢(翻訳) メディカルサイエンスインターナショナル	参考書	<p>・臨床研究と疫学研究のための国際ルール集 中山健夫・津谷喜一郎編著(2008) ライフサイエンス出版</p> <p>・臨床研究と疫学研究のための国際ルール集Part2 中山健夫・津谷喜一郎編著(2016) ライフサイエンス出版</p>	
授業時間外で行う学修内容	<p>予習: あらかじめ配布した講義資料を熟読すること。</p> <p>復習: 講義内容に関連した参考書を読み、理解を深め、レポートを作成すること。</p>			
備考				

【旧】

科目名	疫学概論			
必修区分	必修			
開講時期	1年次・前期	単位数	1単位(90分×8コマ)	
科目責任者	小島原典子	担当教員	小島原典子	
科目概要	人間集団を対象とする疫学研究の意義を学ぶとともに、自分の疑問を構造化し、研究の基本設計図を作成するために必要な理論や基本的知識について講義を行う。後半からは実際の論文を読んで批判的吟味のポイントについて解説を行う。			
到達目標	1. クリニカルクエスチョンと研究デザインについて説明できる。 2. メタアナリシスの論文を読み批判的吟味ができる。 3. バイアスと研究の限界について説明できる。 4. 研究デザインごとに論文を批判的に読むことができる。			
授業展開	授業回数	テーマ	内容	担当教員
	1	疫学概論	疫学と研究倫理の変遷について解説し、本科目の進め方の説明を行う。	小島原典子
	2	研究デザイン	クリニカルクエスチョン作成と研究デザイン総論について解説する。	小島原典子
	3	偶然とバイアス	研究の限界と交絡の制御について解説する。	小島原典子
	4	疫学研究のデザイン(1)	横断研究(診断又はスクリーニング)の論文を批判的に読むポイントを解説する。論文の批判的吟味のレポートを作成する。	小島原典子
	5	疫学研究のデザイン(2)	症例対照研究(リスク)の論文を批判的に読むポイントを解説する。論文の批判的吟味のレポートを作成する。	小島原典子
	6	疫学研究のデザイン(3)	コホート研究(予後)の論文を批判的に読むポイントを解説する。論文の批判的吟味のレポートを作成する。	小島原典子
	7	疫学研究のデザイン(4)	介入研究(無作為比較試験)の論文を批判的に読むポイントを解説する。論文の批判的吟味のレポートを作成する。	小島原典子
	8	疫学研究のデザイン(5)	システマティックレビューについて解説し、メタアナリシスの論文を批判的に読むポイントを解説する。論文の批判的吟味のレポートを作成する。	小島原典子
評価方法	レポート(100%) <成績評価の前提条件>必修科目のため、授業は原則として全て出席していることが望ましい。なお、やむを得ず欠席した授業回については、次回の授業までに収録した講義を視聴するとともに、担当教員からの課題やレポート作成等を行うこと。			
テキスト	臨床疫学 EBM実践のための必須知識 第3版(2016)福井次矢(翻訳)メディカルサイエンスインターナショナル	参考書	・臨床研究と疫学研究のための国際ルール集 中山健夫・津谷喜一郎編著(2008)ライフサイエンス出版 ・臨床研究と疫学研究のための国際ルール集Part2 中山健夫・津谷喜一郎編著(2016)ライフサイエンス出版	
授業時間外で行う学修内容	予習: あらかじめ配布した講義資料を熟読すること。 復習: 講義内容に関連した参考書を読み、理解を深め、レポートを作成すること。			
備考				